2022年度　サポートシステムあゆみ　事業報告

　生活介護・放課後等デイサービス・居宅介護・重度訪問介護・行動援護・同行援護

地域生活支援事業・インフォーマルサービス

サポートシステムあゆみ　施設長　戸田拓郎

前年度から引き続き新型コロナウイルス感染対策をしながらではあるが、利用者の楽しみが広がるよう少しずつ活動範囲を広げながら各サービスを実施した。職員及び利用者が感染する事が数回あり、1～2日間のサービス休止や在宅支援での対応をする事があったが、感染が大きく広がる事はなかった。奈良市クラスター対策室への報告等も慣れてきた部分もあり、検査の対応等迅速に行えるようになってきた。感染が起きた際には同室からの対策の不充分な部分への指摘もあり、都度換気の方法を変更・徹底する等対策を強化してきた。また、職員が感染したり濃厚接触者になったりして欠勤となる事も多く他のスタッフの負担も大きかったが、職員同士で協力して乗り切る事ができている。

９月には駐車場整備工事を行い、11月からは増築工事が始まっており、駐車場が変更になったり一時的に通路の閉鎖により勝手口からの出入りにしたりする等、施設環境面で大きく変動があった。利用者・家族には事前に連絡し、特に送迎に来られるご家族には丁寧に説明するよう取り組んだ。一部の方に戸惑いは見られたものの大きく混乱する事はなく進められている。

職員研修については、外部研修参加は一部に留まり、内部研修の機会も少なかった。対面での研修も取り組みやすくなる今後に向けては、知識向上とスキルアップの為、外部・内部研修とも計画的に参加・実施して機会を多く持っていく事が必要である。

【生活介護事業（ふきのとう班）】

　前年度まで、週に2回活動に参加していたオープンスペース‛AYUMI’の利用者がふきのとう班の所属となり、13名となった。

新型コロナウイルス感染防止の為、通所を控えて在宅支援を行っていた利用者も感染状況が落ち着いてきた年度途中からは通所を再開された。一時期病気の為、入院していた利用者1名も無事快復して利用再開となった。体調や気分の不安定さにより安定した通所ができない利用者もいるが、気持ちにより添いながら電話等での支援も行い、本人のペースでの通所を続けられている。

年度初めから気持ちや行動の落ち着かない時期が続く利用者もおり、職員間で話し合ったり他の部署の職員等にも意見を聞いたりして関わり方や環境設定、スケジュール内容を見直す等、落ち着いて過ごせるよう取り組みを続けた。

活動内容としては前年度までの活動に加え、図書館への外出も再開し、地域資源を活用して利用者の楽しみにも繋げられた。また、音楽活動の一環でダンスを実施したところ利用者の大いに楽しんでいる姿が見られ、以降は金曜日にリラクゼーションと隔週で固定プログラムとして実施した。

【放課後等デイサービス】

　4月に新1年生7名が加わり、また年度途中で利用頻度の上がった利用者も数名おり、1日あたりの平均利用者数は前年度を約0.5人上回った。

　また新1年生が例年に比べても身辺介助の必要な児童や多動性のある児童の割合が高く、職員が一人の児童にかかりきりになる事も多くなった。一般のこども園等での集団生活を経ないで就学する児童も多く、またコロナ禍の影響もあってか生活経験が不足しているように感じられ、集団プログラムに加え、個別に身辺の自立から取り組んできた。

　コロナ禍で中断していた料理プログラムは、状況がやや落ち着いてきた年度途中から、調理場所や材料も個別に分ける等感染対策を施した上で、少しずつ再開した。

土曜日の外出プログラムは感染拡大を懸念して今年度も実施しなかった。

　職員の負担軽減と人材確保の為に計画していた送迎出発時間の変更は、利用者家族への周知不足の為、今年度は実施を見送った。

【居宅介護・行動援護・同行援護】

　居宅介護は、継続的に利用されていた方が昨年度途中から入所施設へ移転され、全体の利用数は前年度より大きく下回った。

　行動援護はコロナ禍で外出先を制限してきたが、年度途中からは感染状況の落ち着きを見て近郊への公共交通機関での移動やプールや銭湯の利用等、少しずつ解除した。その影響もあり、コロナ禍前まではいかないが、年間の利用時間数は少し回復した。職員数は依然足りておらず、利用をお断りするケースも多くある。今後、感染状況が収まるとニーズの増加や1回あたりの利用時間が延びる事が予想され、常勤・非常勤とも職員の増員が必要な状況である。

　同行援護は２名の利用者が継続して利用されている。

【地域生活支援事業（移動支援・日中一時支援）】

　移動支援は行動援護同様に活動範囲の制限を少しずつ解除していっており、利用時間数も増加傾向にある。

　日中一時支援は「ちょこっとステイ」を継続した。新型コロナウイルス感染拡大防止の為、引き続き児童との接点を避けてオープンスペース‛AYUMI’のフロアを借りて実施している。法人内の生活介護・就労Ｂ利用者以外の利用も受け入れてきたが、事業の整理と職員体制の再編成の為、3月末で受け入れを終了した。

【インフォーマルサービス】

　「ちょこっとステイ」を、日中一時支援と同様にオープンスペース‛AYUMI’のフロアで実施した。また、「ちょこっとステイ」後の送迎や、個別のニーズに応じて送迎サービスを行った。

　音楽プログラム「ケチャケチャ」は参加定員を少なくして対象を成人に限定し、フェイスシールドを着用する等の感染対策を行った上で、3年ぶりに再開した。待ちに待った再開で参加者は太鼓演奏等で存分に楽しんでいる様子が見られ、また途中からは新規の参加者もありとても盛り上がった。しかし、職員体制の再編成と講師の都合もあり、残念ながら3月の活動をもって終了した。

以上